

ケベック州政府経済開発・イノベーション支援・輸出大臣

レイモン・バシャン

本日は、世界で最も威信に満ちた首都の一つであり、産業パワーと日本の文化のシンボルでもあるここ東京でこのような時を、みなさまと共に出来るのは大変光栄です。

まず、在日カナダ商工会議所会頭のフィリップ・オニール氏に、商工会議所のメンバーとゲストのみなさまの前でお話する機会を与えていただき、御礼を申し上げます。

さらに、在日カナダ大使館と私たちが長年、素晴らしい関係を築いてこられたことを、是非ここで強調し、喜んでいることを、述べさせていただきたいと思います。

ケベック州政府在日事務所が、東京でオフィスをオープンしてからすでに33年となりますが、これはひとえに、大使館スタッフの揺るぎないサポートと、卓越したプロフェッショナルリズムのおかげです。心から、カロン大使とそのチームに御礼を申し上げます。

DEALING WITH MISPERCEPTIONS (誤解への対応)

カナダの、みなさまが一番馴染み深い地域は、一番西側にあるブリティッシュ・コロンビア州ではないかと思います。ブリッティッシュ・コロンビアの人工は390万人。そのGDPは1,680億ドルです。そして、太平洋沿岸地域への玄関口となります。しかし今日は、その反対側に位置する東側に、みなさまをお誘いしたいと思います。人口720万人。GDP2,740億ドルのケベック州を発見してください。

実はつい先日、5月26日、モンリオールで開かれた「モンリオールで日本発見」というイベントで、約50人の日本企業のトップの方々とお会いしました。今日は、ここ日本で、日本のビジネス・コミュニティとの交流のために、こうして来日することが出来、大変榮譽に思います。

日本はモダンで刺激的な社会としてこの15年、急速な変化を経験されてきたと思いますが、ケベック州も同じです。ただ、日本でお会いするさまざまな人生を歩んおられる方々の中には、受身的な、ステレオタイプ化した考えを持つ方もおられ、その方々の頭の中にあるわが国カナダの文化に対するイメージは、現実からほど遠いものです。

海外の人々が、芸者はどこにでも居て、東京の街角で出会えるものだと思っていたら、日本人としてみなさんも、それを訂正したいと思われるでしょう。

同様に、ケベック州ではコミュニケーションが出来ない。なぜなら誰もがフランス語を話すから、と誰かが言うのを耳にしたなら、私は是非、申し上げたい。モンリオールは北米で、最大のバイリンガル都市であり、ケベック州では、80%の住民がフランス語を話しますが、小学校と高校ではフランス語と英語が必須科目になっています。

もう一つの、ケベック州に対する誤解が、政治的な野望に関するものです。カナダのステファン・ハーパー首相は、ケベック州はカナダでも、最も連邦主義的な政府であると言っています。私は3年前に選出された、ケベック州のリベラル、つまり連邦主義政府に所属しています。私たちは統一されたカナダの中での、強いケベック州を信じています。ケベック州民の大半も同じで、最新の独立に関する国民投票でも、はっきりと、強く、その意向が表明されています。

OBJECT OF THIS VISIT (今回の訪日の目的)

今回の訪日は、チャンスがあったから、というよりは必然でした。ケベック州政府が5月24日に発表した、新しい国際政策を喚起する、というのが、目的です。新政策は世界へのビジョンを再定義し、特別な、長い絆を築きたいと願っている国々へ、われわれの努力を向けることを可能にするものであり、ケベック州にはとても大事なものです。

この政策の中で日本は、ケベック州が関係を強化したいと願い選んだ国々の代表です。新政策は、世界で、最速の経済的發展を実現した地域であるアジアでの、日本の指導的な立場を認識しています。その精神に基づきわれわれは、ケベック州政府在日事務所の経済的な機能を強化することを決定しました。

私はみなさんと今日、このように直接、個人的にお会いし、われわれが何を実現しようとしているのかをお話し、その実践にあたり、われわれがどれほどの決意かを、理解していただきたいと思っています。

QUÉBEC'S INTERNATIONAL POLICY (ケベック州政府国際政策)

ケベック州の新しい国際政策は、もちろん、われわれの政治的、経済的なアメリカおよびヨーロッパとの関係の重要性を確認しています。しかし今回新たに、アジア、特に日本との経済関係を重要点として強調しています。

今回の新政策によってわれわれは経済的に日本に焦点を当て、アジアでさらなるリソースを展開させたいと考えています。

ケベック州のアジアとの経済交流は、世界のどの地域との交流よりも速いスピードで発展しました。日本が一位で、中国、オーストラリア、韓国、インドと続いています

アジアの経済成長は、日本でのわれわれの活動を強化し、多様化へと導いてくれます。

地域の経済的統合のフレームワークの中でわれわれは、北京と上海の事務所を強化します。またインドのムンバイで新しい事務所を開きます。

東京事務所は単に、経済的な誘因ではなく、ケベック州が他のアジアのコミュニティに到達するための、主要な舞台です。日本で積み重ね経験をベースに、これらのコミュニティとの関係強化を成功させることが重要だと、われわれは信じています。

以上は、ケベック州の新しい国際政策の中のアジアに焦点を当てた、数多くのハイライトの、ほんの一部です。

QUÉBEC'S DELEGATIONS ABROAD (ケベック州の海外代表)

みなさまの中には、カナダ大使館があるのに、どうしてケベック州は東京に事務所が必要なのかといふ方もおられるのではないかと思います。

ケベック州は世界に28の事務所および代表部のネットワークを持っています。ケベック州政府在日事務所は33年前の1973年に、日本との経済的商業的交流を深めるために設立されました。公的支出の融資を手助けするために、円市場に進出したオーストラリアについて、ケベックが第二番目の国だったことは、特筆するに値するものと思います。現在でも、ケベック州の国債の8%は円建てです。

さらに詳しく言いますと、ケベック州の海外事務所は、大使館によるサービスを補足サポートするものであり、われわれの企業の日本進出のため、直接的にサポートするサービスを提供しています。

QUÉBEC-CANADA COMPLEMENTARY ROLES (ケベック州とカナダの相互補助の役割)

ケベック州政府事務所とカナダ大使館が、互いに補い合っている関係を説明するために、次のようなお話をしたいと思います。

今年の5月23日、日本農業規格協会は原則的に、ケベック州およびその他のカナダの地域からのジャック・パインを、合板製品の認可された製造原料として、リストアップすることを認めました。このリストの規格改正リストは、2007年3月に批准される予定です。

ここで、この場をお借りして、今日の皆様の中に、農林水産省のミズタ氏およびミヤ氏をご列席頂いていることを申し上げたいと思います。お二人には個人的に感謝いたします。お二人のご理解とサポートがなければ、今回の承認を決定するのは困難だったのは明らかです。

今回の同意書に向かったの努力は2001年にスタートしました。ケベック州政府とカナダ大使館はカナダ・ウッド、東部カナダ・ケベック木材輸出局、それにフォリンテック社などのさまざまな団体と協力をして、今回の承認を確保するために、さまざまな手続きを実現してきました。そして、これらの相互的努力の成功によって、ケベックの製造業者たちは直接的な利益を受けることが出来るようになりました。

QUÉBEC INNOVATION AND CREATIVITY (ケベック州の革新と創造性)

ケベック州民はよく、産業のみならず文化的にも革新的だと評されます。例えばモントリオールには、カナダ最大数のエンジニアが暮らしており、カナダのエンジニアリング企業の60%がモントリオールに居を構えています。

さらに、アメリカ特許トレードマーク・オフィスによる特許発行数はモントリオールが最大で、これは、2006年のISQによれば、カナダ全体の特許保有者の30%に当たるということです。

ケベック州のクリエイティブな面は、文化シーンにおけるル・シルク・ド・ソレイユのような、アーティスト的な企業などの活躍によって、お分かりいただけると思います。高名な、このサーカス・カンパニーはケベック州出身で、クイダム、サルティバニコ、アレグリアなど、さまざまショウで日本のみなさまに知られ、何百万もの日本の方に楽しんでいただきました。2008年、ル・シルク・ド・ソレイユは、北米以外では最初の劇場を、東京ディズニーランドにオープンします。

モントリオールは、「クリエイティブ・シティ（創造の街）」とよく呼ばれます。ベストセラー作家であり、高名なアメリカ人エコノミスト、リチャード・フロリダ氏が、モントリオールを、北米25都市の仲の第二位にランクして以来のことです。これは、航空宇宙科学、生製薬業、コミュニケーション、情報テクノロジーなどのリーディング・エッジ分野における、「スーパー・クリエイティブ・コア」マンパワーという観点からの、ランク付けです。

DIVERSIFICATION OF EXPORT MARKETS（輸出市場の多様性）

しかし、クリエイティブ性だけでは十分ではありません。商品を手にしていただく場が必要です。これらの場所は日本で多く見られる「ニッチ市場」に見出すことができます。ケベック州は、専門化した電子部品、ソフトウェア、それに産業機器の生産の、世界のリーダーの一つです。この分野の製品の85%はアメリカに輸出されています。しかし、卵を一つの籠に入れておくのは危険であるように、アメリカだけではなくケベック州にとって、日本は非常に重要な市場となりました。

日本はすでに、ケベック州のハイテク製品の輸出先としては、アジア最大の市場です。日本の主要工業企業とのパートナーシップによって、ケベックで開発され製造された技術が、それぞれの最終製品の製造プロセスで使用されている事を、誇りに思います。

QUEBEC ECONOMIC DEVELOPMENT STRATEGY（ケベック州の経済発展戦略）

ケベック州の経済発展戦略の主要目的の一つは、イノベーション分野への投資率を、われわれのGDPの3%レベルに上げることです。

ケベック州のGDPに対するR&D支出の比率は2.74%で、カナダの州の中では最高です。これはまた、OECD、G-8、EUのメンバーの国々の平均を上回っています。

KPMGが去年まとめたデータによれば、ケベック州のビジネス設立費用と運営コストは、産業化された諸国では最少です。経済活動のすべてのセクターにおいても、これらの費用はカナダの平均を2.2%、アメリカの8.1%、そしてG-8諸国の費用の15%下回っています。

さらにわれわれの税制度は、ビジネスに競争力を与えます。ケベック州の企業は利益に対する税率の支払いは、北米で最少です。

R&Dに関してケベック州は、最良のタックス・クレジット・プログラムを提供しており、航空業およびバイオテクノロジーでは、どこよりも利点を得ることが出来ます。バイオテ

クノロジーですが、ケベック州は北米第四位にランクされ、モントリオール地域には143社があります。この分野でのリスク・キャピタルへのアクセスは、カナダです。

QUEBEC-JAPAN ECONOMIC RELATIONS (ケベック州と日本の経済関係)

ケベック州では、日本の経済的な復興を、喜び、熱い視線を送っています。過去5年間の、日本と中国との、経済関係の発展は、まさに目を離せない壮大なものでした。それが、日本へのケベック州からの輸出にプラスの影響を与えました。

伝統的に、日本との通商交流でケベック州が利益を得たビジネスの大半は、北米の自動車産業であったことを、理解する必要があると思います。今日、日本と中国との、拡大、発展している通商交流には、その他多くの産業分野が含まれて居ます。

そこでケベック州は、日本とのパートナーシップを考えた時、アジアでの日本の技術進展をと考えました。どうしてか？ニッチ市場を通して、日本のテクノロジーの発展に活用されている、特殊な製品やエッジ・テクノロジーを提供することで、ケベック州が日本の技術進展に寄与しているからです。

世界のメディアは、時には、日本に影を落としている、中国の経済上昇に注目していますが、ケベック州の輸出企業はこれまでの日本の取引相手との関係に、変わらず、全面的に満足しています。

この5年間でケベック州は日本に、ほぼ2倍の輸出を実現し、12億ドルに達しています。この意義深い数字は、日本が現在、ケベック州の年間30億ドルに達している全世界への、第三輸出先市場であると示しています。

ケベック州にとって、農産物分野の輸出は、非常に重要です。この分野は、全輸出の40%を占めています。そして昨年初めてケベック州は日本に、アメリカへの額以上の豚肉を輸出しました。

農産物分野は、ケベック州と日本が関係を結んでいる幅広い通商分野の一つです。その他重要な分野には光学および光子学、情報テクノロジー、バイオテクノロジー、航空学などがあります。

THE QUEBEC AEROSPACE INDUSTRY (ケベック州の航空宇宙産業)

航空宇宙科学は、ケベック州が大いに優れた業績を上げている分野の一つです。ケベック州はカナダの航空宇宙産業の最前線にいます。

カナダ航空宇宙産業の62%が、ケベック州に本拠を置いています。

ケベック州の航空宇宙分野の企業数は、240社です。

3万9千人が働いています。

専門化された労働力は、最新の生産メソッドとテクノロジーの活用に使われています。

ここでは、業界の最大手である、ボンバーディア、ベル・ヘリコプター、プラット&ウイットニー、CAE、ロールスロイス、はにーうるcc、ロッキード・マーチン、オリコン、EMSテクノロジーズなどの名前を見ることが出来ます。

モントリオールには、国際的な60の組織が本拠を置き、国際シビル・アヴィエーション協会、国際航空輸送教会、バイオロジカル・デヴァーシティ会議事務所、環境協力コミッション、ユネスコ統計局、世界反ドーピング・エージェンシーなどがあります。

モントリオールは地球上で、30キロ四方の中で、飛行機建造のための主要なパーツが全て揃う、唯一の場所です。

QUALIFIED WORKFORCE (資格を持った労働力)

日本の航空宇宙分野において、最も大きな課題の一つが、専門的な訓練を受けた技術力のある人材です。ケベック州には、企業にとって必ずや貴重なリソースとなる、高い資格を持った労働者が数多く集まっています。

ケベック州は技術専門カレッジや工科大学と連携して、訓練ネットワークを確立し、航空宇宙業界に絞ったプログラムを提供しています。これらの教育プログラムから、毎年ケベック州の航空宇宙業界に、3,600人の専門の新卒有資格者が参入します。

ケベック州の、もう一つの利点が、世界中から集まった何百人もの専門知識を持つ労働者です。彼らは、バイリンガル都市としてのクオリティの高さと、北米でも、最も多様な文化を有する大都会である点から、モントリオールへの移住を決めた人々です。

ケベック州は世界的に、安定した労働力を持つことで知られています。企業にとって、ケベック州の転職率の低さは、転職が多いアメリカと比べて、大いに考慮するに値する利点だと思えます。

TRADITIONAL SECTORS (伝統的な分野)

航空宇宙産業は、ケベック州が提供できる分野の好例ですが、農産物や自然資源などの伝統的な分野においてもケベック州は、力強く安定していて、アルカン、ノランダオ、それにリオ・ティントなど世界的のトップ・プレイヤーが揃っています。林業分野は、言うまでもありません。

日本の緑茶の効能が、ケベック州の人々に発見され評価されたならば、日本全国の人々も、メープル・シロップとカエデの木の利点を発見することになるでしょう。そうすれば、ケベック州の人々が長い間誇りにしていた伝統的な産物が、日本の人々が喜んで貰えるのではと、私は考えるだけでわくわくします。

カエデの木は家具、木製品、魚釣り道具に、キャビネットやフロアリングの重要な素材として、長く使われてきました。カエデの木は文化的産物といえます。日本でもカエデの美しさと品質を促進する動きがあると知り、とても嬉しく思います。

その点で、住友林業の素晴らしい寄与について、申し上げたいと思います。「スーパーナチュラル・メープル」というキャンペーン名で、全国的に展開しているPR活動はこれから長く、カエデの素晴らしいクオリティを活用する新しいトレンドを作り発展させてくださるものと思います。

ここで健康と環境側面における、カエデの価値の、知られている事実について、一つ、付け加えさせてください。日本で行われた研究結果によれば、多くの木々の中でもカエデは、たとえばVOC（揮発性有機化合物）などの化学的排気ガスレベルがもっとも低いとされています。

A WORD ABOUT THE KYOTO PROTOCOL（京都議定書について一言）

環境の保護と維持、気候の変化との戦い、それに温室ガスの削減は、京都議定書の目的を尊重するケベック州政府にとり、解決案の批准において、重要なファクターです。

QUEBEC'S NEW ENERGY POLICY（ケベック州政府の新しいエネルギー政策）

そのような観点から、みなさんも大いに関心をお持ちだと思われる、ケベック州の新しいエネルギー戦略について、手短にお話したいと思います。ケベック州であろうと、日本で暮らしていようと環境保護の願いは同じで、環境はわれわれの食物、空気、水の源です。環境に問題があるとすべての分野にマイナスのインパクトを与えるので、環境を尊重するエネルギー戦略が重要です。

ケベック州のエネルギー戦略は、持続可能な開発コンセプトに合致するものです。

ケベック州の水力発電力は世界で第四位。投資額250億ドルの、新しい水力発電プロジェクトによって、4,500メガワットまで生産量を増やす予定です。

ケベック州は風力発電における世界のリーダーになる決意で、生産量4,000メガワット、またはケベック州の総エネルギー量の10%を目指しています。

ケベック州は再生可能なエネルギー技術の調査開発を推し進め、バイオ・ジゼル燃料、エタノール燃料、地熱科学、それにソーラー・エネルギーの活用を推し進めたいと考えています。

まとめますと、ケベック州は、州民にも、企業にも、北米の輸出市場にも提供できる、十分なエネルギーを保有している、ということです。

PARTNERSHIP IN THE ENERGY SECTOR（エネルギー分野のパートナーシップ）

ケベック州には先を見通したアイデアが溢れ、それを実現させる意志があることが、はっきりお分かりいただけたと思います。

さらにわれわれは、日本国自身が、エネルギー節減技術における世界のリーダーであることを認識しています。これは、ケベック州と日本の、創造的な経済交流を発展させる可能性に溢れた分野です。

この新しい、そして可能性に溢れた分野に積極的に関わっている日本のすべての投資家、企業が、ケベック州と共に、よりよい将来の実現という共通の夢を実現へ向かっていただければと思います。

REASONS TO INVEST IN QUEBEC (ケベック州に投資する理由)

今日おいでいただいているほとんどの投資家の方々が考えておられる質問「どうして私がケベック州に興味を抱く必要があるのか？」への答として、私はケベック州でビジネスをする最良の理由の二つをお伝えしたいと思います。

最初の理由は、ケベック州には、非常に優秀な、専門知識を持った労働力が潤沢にあることです。そして第二の理由は、ケベック州には持続可能な、発展のすべての条件に答えられる、そして、リニューアブル可能な重要で安定性のあるエネルギー資源があることです。

日本のトップ企業の多くがこの利点を理解し、ケベック州にすでに操業拠点を設立しています。たとえば、ブリジストン、Toyota Gosel、富士通、小松、ソニー、オリンパスなどです。

ケベック州の企業の誘致および実践プログラムは、北米の中でも、最も競争力に優れ、ケベック州でビジネスをしようとする日本の企業および投資家をアシストし、サポートする体制が整っています。投資パートナーとしてのわれわれの役割は、ケベック投資公社やSGF産業開発融資公社のような機関を通してお手伝いすることです。

CONCLUSION (結論)

今日お集まりいただいた日本のパートナーのみなさまに心からの謝意を表して、終わらせていただきたいと思います。日本では、信頼に値する関係を、時間をかけて育ててゆくことが大事であり、それが健全なビジネス関係に寄与すると、私は認識しています。ケベック州のビジネス関係者が、日本のパートナーがお持ちいただいている誠意にいか感謝しているかを、今一度、申し述べます。

また、最初に申し上げたように、ケベック州の新しい国際政策での、日本の役割がいかに重要かを確認するために今回来日することが出来、幸せです。日本はわれわれの、アジアでのナンバー・ワン・パートナーであり、みなさまとビジネスを続けられることを、感謝し、嬉しく思っております。

私たちの国は共に、歴史の重要性を認識しています。東京は17世紀前半に建設され世界で最大の都市の一つとなりました。ケベックもまた、1608年に設立、北米では最も古い都市です。2008年われわれは、400周年のお祝いをします。みなさまを心温かくお招きして、私たちと共に、その素晴らしい瞬間を共有していただきたいと思います。

どうもありがとうございました。